

# 尾ノ上の風

第9号



学ぶ きたえる 助け合う

文責:校長 村上 正祐

## 水あそび・水泳の学習再開

今年は、阿蘇の噴火と風向きの具合で、火山灰がプールに入っておりました。加えて、プールのろ過機の調子も芳しくなく、プールを1週間使用できませんでした。水を抜いて、再度学校で掃除をして水をすべて入れ替えてきれいな状態が用意できましたので先週から水あそび・水泳の学習を始めました。8月末は梅雨のような天候もあり、気温も低かったのですが先週に入り、厳しい残暑が戻ってきたので子どもたちも気持ちよさそうにプールに入っています。3年生以上では、どのくらい泳げる距離が伸びたのか泳力調査もする予定です。今週には、プール納めも予定されています。

ゆく夏を惜しみながら、水に親しんで体力をつけて欲しいと思います。



水にすっかり慣れて、  
水の中の輪っかをくぐる  
1年生の子どもたち



## 錦ヶ丘校区 4小学校 あいさつ運動に取り組み中

錦ヶ丘中学校に卒業生を送り出している尾ノ上、健軍、山ノ内、月出の4小学校と錦ヶ丘中学校で今年から校区校長会を開き、情報交換や取り組みを一体となって進めています。毎月1日は中学校で挨拶運動をしています。錦ヶ丘中で取り組んでいるあいさつ運動を4つの小学校でも更に力を入れていこうと確認を致しました。

これまでも小中連携で取り組んでいたことですが、校長会で2か月ごとに集まり、連携しながら進めて参ります。尾ノ上小の校区でも皆様のご家庭の戸口近くを通る子どもたちに、挨拶を投げかけていただければと思います。ご協力をお願いいたします。

## 市Pバレー大会出場

熊本市のPTAミニバレー大会が9月1日（日）に行われました。昨年は出ていなかったのですが、非常に短い練習期間で尾ノ上小PTAも出場を果たしました。残念ながら、1勝は次年度に持ち越しとなりましたが、チームワークのよいプレーがたくさん見られました。出場いただいた皆様本当にお疲れさまでした。（下：メンバーの皆さん）



## こんにちは！お仕事&授業拝見9 1年1組 奥田先生編

この日、拝見した授業は1年生の算数です。足し算の文章問題でした。授業のはじめは、イラストや「2と1で□」と数の合成をすぐに答えるトレーニングでテンポよく始まり、3、4分で算数モードに子どもたちは入りました。

次に、文章問題の場面のイメージを持たせてからブロックを操作させて答えを見つけていきました。

文章問題の場面を思い浮かべられるというのは、高学年であっても難しく、先生方は実際のモノやイラスト図を使いながら場面の状況をつかませようとされます。今回は1年生なので、奥田先生もカエルや葉っぱのイラストを用い、葉の上のカエルを動かしながら状況をつかませようとされていました。子どもたちも増えるという様子が分かったようで、算数ブロックを出すすぐに操作ができました。先生は、その次に「4匹に2匹ふえると6匹」ということばの式で示し、最後に「 $4+2=6$ 」という式でまとめていかれました。イラストから算数ブロック→ことばの式→式へと丁寧にステップ踏んで進んだので、子どもたちも式と計算に書くことができました。

授業後半は、プリントで今日の内容の習熟を図ります。プリントを実物投影機で電子黒板に映し、イラストを示しながらキーワードの言葉を囲んで問題の状況をつかませて、考えさせていかれました。電子黒板に答えを書かせる活動になると、子どもたちの集中力は途端に増しました。指名できる人数は限られていたので、子どもたちはやりたくてたまらないようでした。最後は問題づくりをしているところでチャイムがなり、授業は終わりました。1年生の子どもたちは、すっかり学校の生活にも慣れ、授業のとりかかりや活動がとてもスムーズにできるようになり、改めて成長を感じることができた1時間でした。



個人の学習をサポート



### 奥田順子 (おくだじゅんこ)先生 尾ノ上小1年目(長嶺小から異動)

【奥田先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

元々人と関わり合うのが好きでしたが、資格を取りたいと教員免許がとれる大学へ行きました。教育実習に行ったときに、担当の先生やその学年にいらっしゃった先生方の授業が大変勉強になり、それから学校の先生になろうと決意しました。

## こんにちは！お仕事&授業拝見10 4年2組 川端先生編



張りのある声で音読する子どもたち(上) 個別にアドバイスを受ける様子(下)



### 川端 結花 (かわばたゆか)先生 尾ノ上小2年目

【川端先生にインタビュー】 どうして先生になろうと思ったのですか。

子どもの頃から友達と本当によく遊び、先生も学校も大好きでした。これが仕事にできたらいいなと思っていました。中学校で自分たちが考えたことが形になっていく楽しさや責任感を味わいました。その後、教育実習に行き小学校の先生に絶対になろうと思いました。

川端先生の国語の授業はとてもテンポよく、45分間濃密な学習活動が行われていました。日々の学習が地道に積み上げられており、先生がめあてを言い始めると子どもたちが一斉にがばっと鉛筆を走らせるという感じです。集中力と書くスピードが日常的に鍛えられています。

授業では、子どもに分かりやすい具体的な行動を指示され、イメージをつかみやすいよう電子黒板や実物投影機を駆使したり、教具を使ったりして視覚化しています。この日は、登場人物の心情を掴ませるために、青とピンクの2色の画用紙で自作したハートの切り抜きを用意されました。うれしい気持ちと落ち込んだ気持ちがどれぐらいの割合かを2色のハートをずらしながら示し、ぴったりくるところで手をあげさせました。「沈んだ気持ち」といっても段落の始めと終わりでは、程度や深さが違うことを視覚化して見せることで、子どもたちが感じるところで手を上げさせ説明をさせられました。また、主人公の考えをワークシートに書かせ、子どもたちが自由に席を立てて友達と交換して読み合うなどお互いに交流して対話する学習が自然に行われていました。1時間中に子どもたちの間を回って指導したのは10回を超えました。音読、ノート作業と常に個人を見て、理解は進んでいるかを確認しておられました。

4年生の子どもたちが授業に取り組む姿が真剣でうれしさを覚えた1時間でした。